



看護係長 山内晴美

認知症者の生活機能に着目した看護を！

日本の高齢化率は2015年には26%を超え4人に1人が65歳以上であると言われています。また65歳以上の認知症者の割合は8.4%と言われており今後さらなる高齢化により認知症者が増加することが予測されます。

当院の脳神経病棟においても認知症患者や身体疾患を伴う認知症者の入院は、ここ数年増加傾向にあります。認知症者にとって急性期病院は、過酷な環境になりがちです。慣れない環境に身体的苦痛が加わり混乱やせん妄を発生することは、必要な治療が受けられないばかりでなく生活機能の低下を招く要因となります。

身体的治療が優先されがちな急性期病院において、認知症者が安心して治療が受けられ、生活機能の低下を最小限に予防し在宅ケアに結び付けていく事が重要です。そのようなケアを多職種と連携をはかりチームで取り組みたいと考えています。

武蔵野赤十字病院

〒180-8610
東京都武蔵野市埴南町1-26-1
TEL 0422-32-3111
季刊 情報誌
発行 企画課



武蔵野赤十字病院にはご入院中の小・中学生のための院内学級（いとおぎ学級）があります。



ひまわりをイメージした
オルゴールです。

けがで右手が使えず、左手で
がんばって彫りました。

13歳



入院中にいただいたお手紙を
この箱にしまっておこうとおもいました。

まっすぐ伸びる「竹」を想像して彫りました。

14歳

夏休み、1ヶ月をかけて作りました。

基本理念

- 病む人への愛
- 同僚と職場への愛
- 地域住民と地域への愛
- 地球、自然、命への愛

基本方針

- (1) 患者・家族から信頼される安全な医療を提供する
- (2) 地域中核病院としての機能向上を図る
- (3) 地域の医療機関・行政と連携して市民が安心して住める地域づくりを進める
- (4) 質の高い医療を提供するため、安定した病院経営を継続する
- (5) 働きがいがあり、成長を実感できる職場をつくる

糖尿病予防フェスタ

日時：2012年11月11日（日）12時～16時
場所：武蔵野赤十字病院



内分泌代謝科副部長 伊藤 健二

大規模研究の結果から、糖尿病は早期発見、早期治療が大切であることがわかってきました。しかし、厚生労働省の調査では、「糖尿病」といわれておりながら、治療を受けていないというひとが非常に多いことが浮き彫りになりました。残念なことです。当院では糖尿病の正しい知識を啓蒙する機会として、世界糖尿病デー（11月14日）に合わせて、糖尿病予防フェスタを行っております。ぜひ、みなさまの参加をお待ちしております。



昨年の講習会風景

1型糖尿病の会

日時：2012年12月9日（日）13時～15時
場所：武蔵野赤十字病院



昨年の講習会風景

1型糖尿病では、膵臓のβ細胞が破壊され、インスリン分泌が無くなります。患者さんは血糖測定を行いながら毎日数回のインスリン自己注射、またはインスリンポンプによる注入を続ける必要があります。それ故、1型糖尿病と診断され悩まれている方は多いです。

当院では、患者さん同士の交流を深め、情報交換する会を年2回行っています。この会に参加していただくことで、多くの人が前向きに生活を送れることが我々の願いです。

薬剤部のお仕事



* 薬剤師による病棟薬剤業務と院外処方について

薬剤部長 堀 治

近年、医療崩壊の危機が社会的な問題となり、患者さんに最速で安心かつ安全な医療を行うためには、チーム医療の一員として薬剤師が積極的に患者さんの薬物治療に関わる事が求められています。

このチーム医療を推進するためには、薬剤師を病棟に専任配置し、薬物療法の有効性、安全性を患者さんの状況に合わせて的確に対応することが必要となりました。

薬剤師が行う病棟薬剤業務には、患者さんが入院時に持ち込まれたお薬の確認と評価に基づく処方設計と提案、薬剤による副作用の軽減と薬害防止、医薬品の情報収集と医師への情報提供、薬剤に関する患者さんや医療スタッフからの相談、注射剤（抗がん剤など）の無菌的調製、病棟にある医薬品の適正な保管・管理などが挙げられます。

「医薬分業」という言葉をご存知でしょうか。

「医薬分業」とは医師の診察を受けたあと、処方箋が交付され、保険調剤薬局（街の調剤薬局）で薬剤師が調剤し、処方箋と引換えに薬が渡されるシステムを言います。

自宅近くにかかりつけの保険薬局を持つことは薬による副作用の起きる危険性や頻度、その兆候など説明を受けることにより副作用の発現を早期に発見し、発生頻度を下げる可能性があります。

どこの病院で診察を受けても同じ薬局で薬を受け取れるため、薬歴（薬の使用履歴）を利用して、違う病院にかかったときに処方された薬と効果が重複しないか確認する事ができます。

また、病院で長時間待たされるのと違い好きな時間に薬が受け取れる、などメリットがあります。

そのような訳で当院では外来での処方箋は院外処方を原則としてお願いしている次第です。今後とも何卒ご協力の程宜しくお願い申し上げます。



病棟薬剤師



薬剤師からお薬の説明を受けている患者さん

診療科のご紹介

循環器科



部長 尾林 徹

当循環器科では、虚血性心疾患（急性心筋梗塞、狭心症）や心不全（心筋症、心筋炎、弁膜症）、不整脈（徐脈性不整脈、頻拍性不整脈、心房細動）、肺血栓塞栓症、深部静脈血栓症、末梢動脈疾患（閉塞性動脈硬化症）、大動脈疾患など多くの疾患の診断治療を行っています。現在 13 名で診療にあたっています。

1999 年（平成 11 年）に CCU（心疾患・冠疾患集中治療室）を開設、東京都 CCU 連絡協議会に参加し、急性期の循環器疾患に対し迅速に対応できるように体制を整備してきました。

CCU には夜間、休日とも循環器科医師が常駐し 24 時間体制で対応しています。また、心臓カテーテル法による予定の検査、治療入院は年間 1200 例余りを受け入れています。

この体制は、循環器病に精通した看護師、薬剤師、臨床工学士、放射線科技師、生理検査、検査科、救急部門、外来など 50 名を超える多数のスタッフのサポートを受けています。

この 10 年間の高齢化社会の進展にもとない、疾患の重症化と多くの合併症（高血圧・糖尿病・脳血管疾患・慢性腎臓病・呼吸器疾患など）を持つ方が増加しています。

これらの患者さんの治療にあたっては、私たちは総合病院の利点を生かし関係各科と協力しながら、患者さんにとって最善の方法を考えて対応しています。

心臓血管外科とも連携を密にとっており、手術治療の選択肢も提示することで最良の結果を得られるように努力しています。

先端的な治療については臨床の場々に迅速に還元出来るように常に積極的に取り組む姿勢を保持しています。

病診（病院と診療所）連携や病々（病院と病院）連携、救急搬送に関わる連携にも早くから取り組んでおり、地域の医療機関の先生方あるいは救急救命士との症例検討会と研究会を定期的に開催し活発な意見交換をしながら「おたがいの見える信頼関係」を築いてまいりました。

この連携を通じて、手術などの侵襲的な治療後の安定期にも継続した質の高い治療が受けられます。皆様安心して最善の医療を受けていただけますよう、今後とも努力してまいります。

